

LIGHT is TIME

Time is Light, Light is Time

「時間は光であり、光は時間である」。我々は、シチズンの時計づくりから発想を得て「LIGHT is TIME」この最もシンプルなコンセプトに辿り着きました。宇宙のはじまりであるビッグバンと同時に光は生まれ、地平の果てから昇る太陽は地球を光で満たし、動く影の変化や季節の変様、月の満ち欠けに気が付いた人類はいつしか『時間』という概念を創出しました。

LIGHT is TIME

シチズンは「時計を全ての市民へ」という理念に基づき、「光を時間に変える」という壮大な時計づくりの挑戦に臨んできました。『LIGHT is TIME』は光と時のインスタレーションです。ミラノ・トリエンナーレの展示会場に、時計の全ての部品を支える基盤装置「地板」8万個使った壮大な空間の発表を行います。そこでは光が空間を満たし、音と光によって未だ人類が経験したことのない光と時を感じる空間演出（スペース・オーケストレーション）を構想しています。会場にはシチズンの原点となる懐中時計から最新の衛星電波時計を展示すると共に、来場者に「時計とは何か」を探求するシチズンの挑戦に触れてもらえたらと思っています。

21 Century Light for Time

時間とは光です。光のはじまりがなければ、時間が生まれることはありませんでした。20世紀、人類は時間をデジタルに数値化し、計測し、短縮し続けたことで、いつしか時間から光を忘却していたのです。光なくして宇宙の驚き、地球の豊かさ、生命の喜びは生まれません。

時間に光を呼び戻すこと『LIGHT is TIME』は「21世紀の光」への挑戦なのです。

田根 剛 (DGT)



DGT(ドレル・ゴットメ・田根 / アーキテクト)

2006年よりダン・ドレル、リナ・ゴットツメ、田根剛の共同主宰により、DGTをパリに設立。エストニア国立博物館・国際設計競技を受賞したDGTは、パリを拠点に「場所の記憶」をテーマに建築の創造を試みている。現在建設中の『エストニア国立博物館』(2016年完成予定)をはじめフランス、イタリア、日本、レバノン、スイスでプロジェクトが進行中。2008年、イギリス・ICON MAGAZINE「世界で最も影響力ある若手建築家20人」に選出、2012年には新国立競技場国際コンペティションで「古墳スタジアム」がファイナリストに選ばれ国際的な注目を集めた。フランス文化庁新進建築家賞(2008)、ミラノ建築家協会賞(2008)、Red Dot Award Winner(2013)など多数受賞。

www.dgtarchitects.com